

日本性科学会雑誌

JAPANESE JOURNAL OF SEXOLOGY

VOL. 26 NO.2 Sep. 2008

第28回 日本性科学会学術集会

「男と女の間には...」

会長講演 座長 吉川 史隆

男と女の間には...インターセックス～30年間の医学的自分史～ 菅沼 信彦

特別講演 I 座長 宇野賀津子

スカートの中が見える時－性欲の文化論－ 井上 章一

特別講演 II 座長 江川 隆子

「性」をとりまく社会的問題と政治 阿部 俊子

シンポジウム「マイノリティにおけるセクシュアリティ」

..... 座長 甲村 弘子、森村 美奈

ゲイ男性のセクシュアリティ 日高 庸晴

性同一性障害者の性行動 針間 克己

ターナー女性が語る、自分の性にまつわるトリロジー～過去・現在・未来～

..... 中野 明子

障害のある人のセクシュアリティ 谷口 明広

一般講演 I 座長 金子 和子

一般講演 II 座長 杉山 正子

日本性科学会
Japan Society of Sexual Science

主催 日本性科学会 (JSSS)
JAPAN SOCIETY OF SEXUAL SCIENCE

第 28 回 日本性科学会学術集会

会長：菅沼 信彦（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）

会期：2008 年 10 月 4 日（土）第 10 回性科学セミナー
10 月 5 日（日）第 28 回日本性科学会学術集会

会場：京都大学医学部芝蘭会館稲盛ホール

学術集会事務局

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53
京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻家族看護学講座
TEL：075-751-3971 FAX：075-751-3971
E-mail：jsss28@hs.med.kyoto-u.ac.jp
HP：http://fb.hs.med.kyoto-u.ac.jp/jsss28



会長挨拶

第 28 回日本性科学会学術集会長
京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻教授
菅沼信彦

この度、第 28 回日本性科学会学術集会を 2008 年 10 月 5 日（日）に、前日の第 10 回性科学セミナーと同時に、京都大学医学部芝蘭会館にて開催させていただくにことにあたり、身に余る光栄と感謝申し上げます。

今回の学術集会のメイン・テーマとしては、「男と女の間には…」といたしました。学問的な集会にふざけたタイトルを付けたとお叱りを受けることは覚悟の上で、あえて性の本質に迫ってみたいという個人的目論見の産物であります。

私は、「性科学」に関し、学会長を務めさせていただくほどの経験も学識もございません。あえて採り上げるとすれば、産婦人科医師としての 30 年間、性分化異常やインターセックスなどの方々の治療などに関わらせていただいた過程を通じ、「性」と「生殖」について勉強させてもらい、また今も、いろいろなことを教わっています。臨床医にとりましては、「医者と患者の関係」から「人と人との関係」をいかに構築していくかが重要なことだと考えています。幸いにも子どもの頃から結婚、妊娠、出産という、数多くの女性のライフサイクルの広い範囲に付き合わせていただくことができました。そんな思い出話を、会長講演でお話しさせていただきたいと思います。

「性」は、医学的観点とともに社会文化論的にも論じられるべきテーマです。そこで特別講演 I としては、「性欲の文化論」を、国際日本文化研究センターの井上章一教授にお願いいたしました。また特別講演 II では、政治との関係を考えてみたいと思います。医療崩壊が叫ばれる昨今、「ジェンダー」や「性」、「生殖」に関わる多くの問題が政策絡みであり、目を向ける必要があります。そこで看護師で衆議院議員の阿部俊子先生に、わが国の政治と医療との接点に関して講演いただきます。

一般社会においては性に関する膨大な情報が飛び交い、多くの議論が可能になった今日でも、わが国では性的マイノリティとされる方々に対して、いまだに十分な対応がなされているとは言い難い状況ではないでしょうか。このような方々を診ている医師の中でさえ、「性的の話はプライベートな問題で立ち入るべきではない」とか、「医師が個々の患者さんごとに対応すれば十分だ」というような旧態依然たる考えがはびこり、「性」を「科学」する意識に乏しいことはとても残念なことです。今回のシンポジウムでは「マイノリティにおけるセクシュアリティ」を企画し、各領域の専門家の研究発表を通じ、真の「性科学」の在り方を問いかけてみたいと考えています。

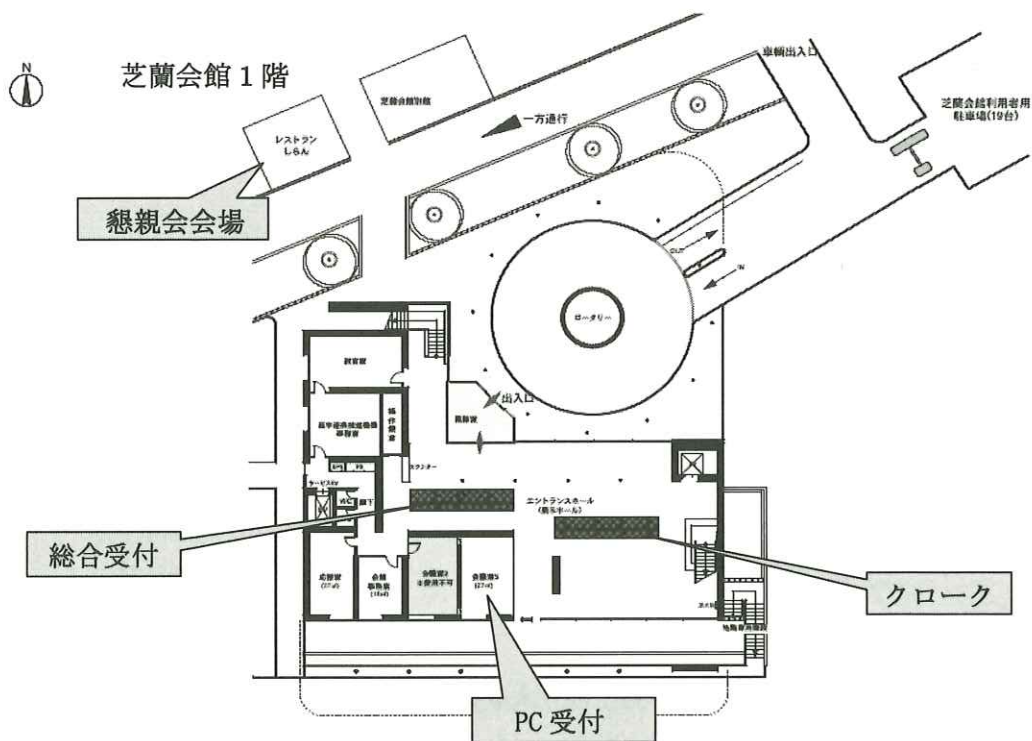
さらに多くの研究者の方々からの研究成果を、8 題の一般演題としてご発表いただきます。1 年の中で最も素晴らしい秋の古都に足をお運びいただき、性科学の神髄をご堪能いただきたく思っています。

交通案内

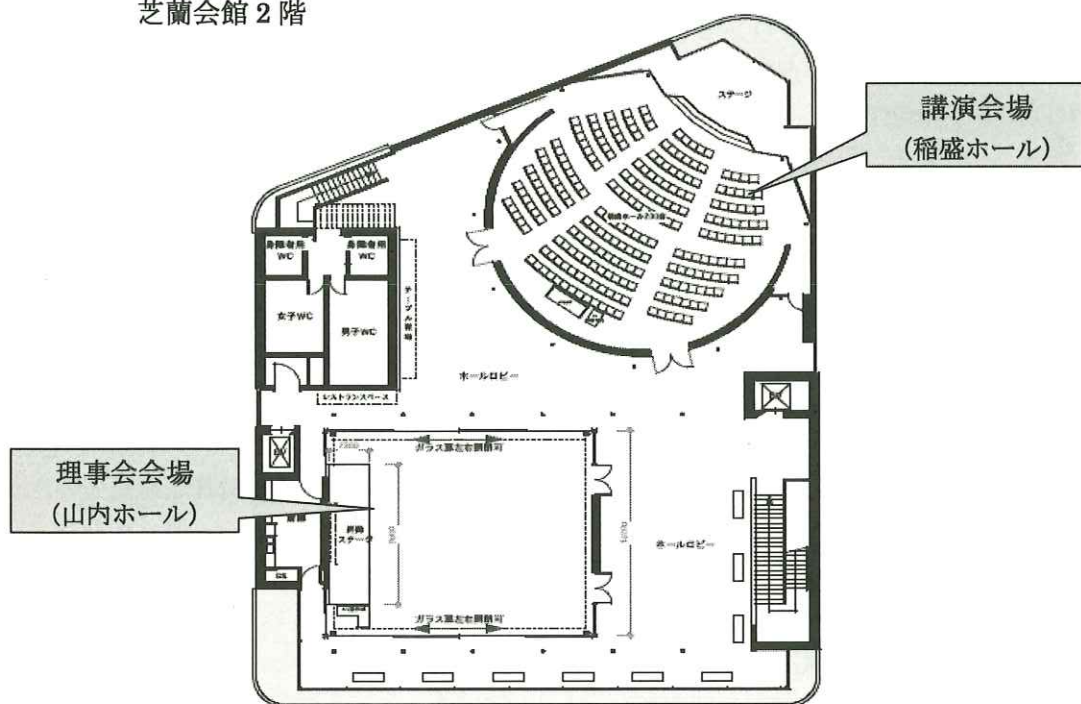


主要鉄道駅	利用交通機関	乗車バス停	市バス系統・経路	所要時間	下車バス停	徒歩
京都駅	市バス(D2 乗り場)	京都駅前	206 系統「東山通北大路 バスターミナル」行	約 35 分	京大正門前	2 分
	タクシー			約 20 分		
阪急河原町駅	市バス(出口 6 番)	四條河原町	201 系統「祇園百万遍」行 31 系統「東山通高野岩倉」行	約 25 分	京大正門前	2 分
	タクシー(出口 4, 5 番)			約 10 分		
京都市営 地下鉄烏丸線 今出川駅	市バス(出口 3 番)	烏丸今出川	201 系統「百万遍祇園」行	約 15 分	京大正門前	2 分
	タクシー(出口 3 番)			約 5 分		
京都市営 地下鉄東西線 東山駅	市バス(出口 2 番)	東山三条	206 系統「高野千本北大路」行 201 系統「百万遍千本今出川」行 31 系統「東山通高野岩倉」行	約 10 分	京大正門前	2 分
	タクシー(出口 2 番)			約 5 分		
京阪 丸太町駅	徒歩(出口 5 番)			約 15 分		

会場案内



芝蘭会館 2 階



学会に参加される方へのお知らせ

【受付】

総合受付は、芝蘭会館 1 階になっております。受付にて参加費をお支払になり、ネームカードをお受け取り下さい。ネームカードは、開催期間中はお付け下さい。

【受付時間】

第 28 回 日本性科学会学術集会：2008 年 10 月 5 日（日） 8：30～

第 10 回 性科学セミナー：2008 年 10 月 4 日（土）12：30～

【参加費】

第 28 回 日本性科学会学術集会 （10 月 5 日） 5,000 円（学生 1,000 円）

第 10 回 性科学セミナー （10 月 4 日） 3,000 円（学生 1,000 円）

日本性科学会学術集会＋性科学セミナー（2 日間） 7,000 円（学生 2,000 円）

（学生は、学生証を提示していただきます。社会人学生は一般と同額です。）

懇親会費 3,000 円

【日本産婦人科学会専門医シールおよび日本産婦人科医会シールの交付】

受付でシールをお渡しします。ネームカードを持参し、記帳の上お受け取りください。

【日本性科学会の資格認定について】

学会出席はセックス・カウンセラー/セラピストの資格認定に必要です。

認定更新のための必要点数（5 年間に 40 単位）のうち、学会出席は 10 単位、演者 3 単位、共同演者 1 単位です。

【抄録集】

会員の方は、抄録集（日本性科学会雑誌 Vol. 26, No. 2, Sep. 2008）を当日ご持参ください。

非会員の方は、会場で、一部 1,500 円にて配布しております。

【演者の皆様へ】

コンピュータ・プレゼンテーションのみの発表とします。Windows 版の PowerPoint にて作成して下さい。事前にプレゼンテーションデータを、添付ファイルにて 9 月 30 日（火）までに、学会事務局の E-mail アドレスにお送り下さい。PC 受付にて当日ご確認をいただきますが、修正はご遠慮下さい。

【一般講演】

発表時間は 7 分、討論 3 分です。

【昼食】

会場内への飲食持込みは禁止されています。会場周辺の飲食店をご利用ください。（お食事マップが受付にありますので、ご利用ください。）

当日、京都ブライトンホテルのサンドイッチ（1,000 円）の販売も致しております。数に限りがありますので、ご希望の方は、当日、受付時にお申し込みください。

【理事会】

理事会が以下の日程で開催されます。

日時	10月5日（日）12：00～13：00
会場	山内ホール

【懇親会】

日本性科学会学術集会・性科学セミナーの合同懇親会を以下の通りに予定しております。皆様、ぜひご参加ください。

日時	10月4日（土）17：30～19：30
会場	京都大学医学部芝蘭会館交際交流会館内 レストラン「しらん」（運営：京都ブライトンホテル）
参加費	3,000 円

第 28 回
日本性科学会学術集会
プログラム

男と女の間には...

日時：2008 年 10 月 5 日（日）8：30～16：30

場所：京都大学医学部芝蘭会館稲盛ホール

第 28 回 日本性科学会学術集会日程表

10 月 5 日（日）

会場：京都大学医学部芝蘭会館稲盛ホール

8:30～ 8:50	受付
8:50～ 9:00	開会の辞
9:00～ 9:40	一般講演 I
9:40～10:20	一般講演 II
10:30～11:10	会長講演：男と女の間には…インターセックス ～30年間の医学的自分史～
11:10～12:00	特別講演 I：スカートの中が見える時—性欲の文化論— 国際日本文化研究センター教授 井上章一先生
12:00～13:00	昼食
13:00～15:20	シンポジウム：マイノリティにおけるセクシャリティ
15:30～16:20	特別講演 II：「性」をとりまく社会的問題と政治 衆議院議員 阿部俊子先生
16:20～16:25	次期会長挨拶
16:25～16:30	閉会の辞

10 月 4 日（土）

12:30～13:00	受付
13:00～17:00	第10回性科学セミナー：日本性科学連合 「性の健康」をめぐる現状と課題 会場：京都大学医学部芝蘭会館稲盛ホール
17:30～19:30	日本性科学会学術集会・日本性科学セミナー合同懇親会 会場：京都大学医学部芝蘭会館別館レストランしらん

第 28 回 日本性科学会学術集会プログラム

メインテーマ：男と女の間には...

8：50～9：00 開会の辞

会長：菅沼信彦（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授）

9：00～9：40 一般講演 I

座長：金子和子（日本赤十字社医療センター）

1. 異性間のカウンセリングにおけるタッチングの考察

川野雅資、茅島江子、藤野彰子

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

2. HIV 抗体検査前後に実施された個別相談に関する分析

山中京子

大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科

3. 性同一性障害の遺伝と環境の影響の推定 — 双生児法による行動遺伝学分析から —

佐々木掌子^{1),2)}、尾崎幸謙³⁾、高橋雄介^{1),2)}、山形伸二^{1),2)}

敷島千鶴²⁾、野中浩一⁴⁾、安藤寿康²⁾

¹⁾日本学術振興会、²⁾慶応義塾大学、³⁾科学技術振興機構、⁴⁾和光大学

4. Sexual impulse の構成障害としての（F52.0）性欲欠除あるいは性欲喪失

梅宮れいか

福島学院大学福祉学部

9：40～10：20 一般講演 II

座長：杉山正子（すぎやまレディースクリニック院長）

5. 短期精神療法で改善した男性性嫌悪症の治療経過

塚田攻

埼玉医科大学かわごえクリニック

6. アンケートによる女性医師の性行動の調査結果

宋美玄、永井敦

川崎医科大学

7. 40歳で妊娠に成功した未完成婚

山崎高明、山崎敦子

神戸・山崎産科婦人科医院

8. 腹腔鏡手術にて精巣摘出したアンドロゲン不応症

(Androgen Insensitivity Syndrome) の1例

小堀善友¹⁾、川口昌平¹⁾、中嶋孝夫¹⁾、島村正喜¹⁾飯島将司²⁾、前田雄司²⁾、高栄哲²⁾、並木幹夫²⁾¹⁾石川県立中央病院泌尿器科、²⁾金沢大学医学部泌尿器科10:30~11:10 会長講演

座長：吉川史隆（名古屋大学大学院医学系研究科発育・加齢医学講座教授）

男と女の間には…インターセックス ～30年間の医学的自分史～

菅沼信彦（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授）

11:10~12:00 特別講演 I

座長：宇野賀津子（ルイ・パストゥール医学研究センター室長）

スカートの中が見える時 ―性欲の文化論―

井上章一（国際日本文化研究センター教授）

12:00~13:00 昼食

日本性科学会理事会（芝蘭会館山内ホール）

13:00~15:20 シンポジウム 「マイノリティにおけるセクシュアリティ」

座長：甲村弘子（大阪樟蔭女子大学人間科学部教授）

森村美奈（大阪市立大学大学院医学研究科卒後医学教育学講師）

1. ゲイ男性のセクシュアリティ

日高庸晴（関西看護医療大学看護学部講師）

2. 性同一性障害者の性行動

針間克己（はりまメンタルクリニック院長）

3. ターナー女性が語る、自分の性にまつわるトリロジー ～過去・現在・未来～
中野明子（ひまわりの会会長）

4. 障害のある人のセクシュアリティ ―性のノーマライゼーションとは―
谷口明広（愛知淑徳大学医療福祉学部教授）

15：30～16：20 特別講演Ⅱ

座長：江川隆子（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻副専攻長）

「性」をとりまく社会的問題と政治

阿部俊子（衆議院議員）

16：20～16：25 次期会長挨拶

塚田攻（埼玉医科大学かわごえクリニック神経精神科講師）

16：25～16：30 閉会の辞

大川玲子（日本性科学会理事長）

第10回性科学セミナー・プログラム

メインテーマ：「性の健康」をめぐる現状と課題

12：30～13：00 受付

13：00～13：10 開会挨拶

第1部

〈座長〉大川玲子（独立行政法人国立病院機構千葉医療センター産婦人科医長）

13：10～13：40 講演1 メタボリックシンドロームとED

邵仁哲（京都府立医科大学泌尿器科助教）

13：40～14：10 講演2 高齢者の性と介護

荒木乳根子（田園調布学園大学人間福祉学科教授）

14：10～14：40 講演3 性感染症の今日的課題を大観する

松田静治（（財）性の健康医学財団理事長）

14：40～15：10 講演4 性感染症の今日的課題ークラミジアを中心にー

岩破一博（京都府立与謝の海病院副院長）

15：10～15：25 休憩

第2部

〈座長〉山中京子（大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科准教授）

15：25～15：55 講演5 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々の性の健康に関する支援

東優子（大阪府立大学人間社会学部准教授）

15：55～16：25 講演6 女性の身体疾患とセクシュアリティ

森村美奈（大阪市立大学大学院医学研究科講師）

16：25～16：55 講演7 性犯罪被害者の診療とその問題点

甲村弘子（大阪樟蔭女子大学人間科学部教授）

16：55～17：00 閉会挨拶

第 28 回

日本性科学会学術集会

抄録集

会 長 講 演

男と女の間には…インターセックス
～30年間の医学的自分史～

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授

菅 沼 信 彦

座長：吉川史隆

（名古屋大学大学院医学系研究科発育・加齢医学講座教授）

男と女の間には・・・インターセックス ～30年間の医学的自分史～

菅沼信彦

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授

私は昭和53年(1978年)に医学部を卒業し、産婦人科医となりました。私の卒業大学(名古屋大学)の卒後研修システムは、当時から、現在の臨床研修システムと同様で、卒業と同時に市中一般病院に出る方式であったため、先ずは1年間各科をローテート研修後、大学産婦人科医局に数ヶ月もどり、その後また関連病院に、今度は産婦人科医として赴任するものでした。その帰局時の数ヶ月間は各研究室に配属され、大学医局生活を経験し、学位取得のための研究で本格的に帰局する際に備えるのが目的であったと思います。

私が配属されました第3研究室は不妊・内分泌が専門で、ボスであった成田収講師(現、成田病院理事長)から「ボーとしていても仕方がないから、何か臨床研究でもやりなさい」と言われ、受け持たされたのが先天性副腎過形成(congenital adrenal hyperplasia: CAH)の5才の女の子でした。CAHは副腎における酵素異常によって、胎生期より高男性ホルモンにさらされるため、女兒では陰核肥大などの男性化がおこる病気です。彼女は就学前の外陰形成のため、婦人科に入院してみえました。これまでは肥大した陰核は切断・切除していたのですが、本例の外陰形成の手術に入らせていただいた際に、成田先生から「なあ、菅沼くん、クリトリスをそんなに簡単に切り取っちゃいかんよな」とのご発言もあり、不完全ではありましたが陰核海綿体切除術となりました。私と「性科学」との出会いはこの時からなのかもしれません。後日談になりますが、内科的治療を継続してもやはり陰核は再肥大したため、15年後の大学生時に再手術を行いました。今度はほぼ完全な形成ができたのではないかと思います。彼女は結婚し、3人の男の子に恵まれ、今でも私の外来にかかってみえます。またまた余談ですが、CAHの治療管理につき、この患者さんを含む5症例をまとめて中部不妊学会(昭和54年6月)に発表したのが私の生まれて初めての学会発表、その内容を雑誌「産科と婦人科」に書いたのが最初の論文でした。

以降、私の基礎研究の主流はホルモン遺伝子の構造と機能の解析、臨床は生殖補助医療を中心とする不妊症となりましたが、性分化異常症に関わる婦人科症例が少なく、専門とよべる医者が少ないためか、以後も数100人のインターセックスの患者さんたちを診させてもらってきました。CAHから始まり、Turner症候群、精巢性女性化症(アンドロゲン不応症)、先天性膈欠損症(MRK症候群)、先天性頸管欠損症、Kallmann症候群、XY女性...そんな婦人科医としての思い出から、「男と女の間」を感じてみたいと思います。

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings present.

【略歷】

1978 年	名古屋大学医学部医学科卒業、三菱名古屋病院に勤務
1981 年	名古屋大学医学部産婦人科講座に帰局
1987-1989 年	米国ワシントン大学に留学
1990 年	名古屋大学医学部産婦人科講師
1992 年	名古屋大学医学部産婦人科助教授
1999 年	豊橋市民病院不妊センター部長
2005 年	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授

【著書】

「生殖医療」、「ED と不妊治療の最前線」、「最新 生殖医療」、など

特別講演 I

スカートの中が見える時—性欲の文化論—

国際日本文化研究センター教授

井上章一

座長：宇野賀津子

（ルイ・パストゥール医学研究センター室長）

スカートの中が見える時 ―性欲の文化論―

井上章一

国際日本文化研究センター教授



パンチラという言葉がある。スカートの奥からパンツがチラリとのぞく。その眼福をしめす言葉である。しかし、こんなことで男がうれしがるようになったのは、比較的新しい。女がはずかしがるようになったのも、ごく最近である。1950年代の電車やバスだと、パンツはほぼ見放題であった。ならば、なぜそんなことが、セクシュアルな情感をそそるようになったのだろう。

パンツが見えることで、よろこぶ。これは性的な本能とさほどかわらない。むしろ、文化に左右されてひきおこされている。歴史的な起源のある性感である。そして、人間の性欲には、そういう面がたくさんある。当日は、生理学や医学で読みとけない、文化的な情動に、光をあてていきたい。

This image shows a full page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a template for handwriting practice or general writing. There are no margins, text, or other markings on the page.

【略歷】

1955 年 京都市生まれ

1980年 京都大学修士課程工学研究科修了、京都大学人文科学研究所助手

1987 年 国際日本文化研究センター助教授

2002 年 国際日本文化研究センター教授

【著書】

「美人論」、「愛の空間」、「パンツが見える」、など

特別講演Ⅱ

「性」をとりまく社会的問題と政治

衆議院議員

阿部俊子

座長：江川隆子

（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻副専攻長）

「性」をとりまく社会的問題と政治

阿部俊子

衆議院議員



昨今、セクシュアリティをめぐる問題は多様化・複雑化しています。

児童虐待や、携帯電話・インターネットなどを利用した小中学・高校生に対する犯罪被害、不妊治療や代理出産など生殖医療にかかわる倫理的課題、ひいては高齢者や障害者のセクシュアリティなど、多くの社会的問題や課題が山積しています。

2003年7月、「性同一性障害特例法」が制定されました。すでに、皆さんがご存知のとおり、本法律の成立に至るまでには、数多くの困難がありました。

当時、私は看護職として教鞭をとっており、この法律が制定された時は、一国民の立場でありましたが、「性同一性障害」という、一般の人にはほとんど知られておらず、社会的な理解も十分ではない、ごく少数の人々に光をあてた法律が成立されたことにより、これまで世間の偏見や誤解に苦しめられてきた方々を救う道筋ができたことに、大変感動したことを記憶しています。同時に、「政治の力」の重要性を感じるとともに、政治は多数派の原理で動いてはおりますが、本来は、このように少数派の方々のためにこそ、政治の力が発揮されるべきであることを痛感したできごとでした。

そして、この法律を機に、「性同一性障害」への社会的な理解が徐々にすすみ、DVや「性同一性障害」に悩む若者を描いたドラマやニュースが、メディアで頻回に取り上げられるようになるなど、社会は確実に変化しています。

また、本年6月には、当初より懸案とされていた「性別の取り扱い変更の要件」を緩和する改正が行われるなど、「性同一性障害」をかかえる人々が、普通に暮らせる社会の実現にむけて、政治はその一端を担ってまいりました。

国会では、現在、不妊の女性に対する代理出産の法整備や、選択的夫婦別姓制度の導入、離婚成立後300日以内に生まれた子どもは一律に「前の夫の子」とする民法772条の規定の見直しの是非など、ジェンダーにかかわるさまざまな問題の議論が行なわれております。

本日、ここにお集まりの皆様にはそれぞれの現場で多くの問題意識をお持ちのことと思います。それらの問題意識を、政治の力で、政策として変えていくことをめざして、皆さんとともに考えて行きたいと思います。

[illegible]

【略歷】

衆議院議員、栄養士・看護師

昭和 36 年生まれ、宮崎県出身

イリノイ州立大学大学院博士課程修了

群馬大学医学部保健学科講師、東京医科歯科大学助教授を経て、平成 15 年社団法人日本看護協会副会長に就任

平成17年9月、衆議院議員選挙に初当選

シンポジウム

マイノリティにおけるセクシュアリティ

座長：甲村弘子

（大阪樟蔭女子大学人間科学部教授）

座長：森村美奈

（大阪市立大学大学院医学研究科卒後医学教育学講師）

シンポジウムの企画にあたって

最近の社会においては、「セックス」、「ジェンダー」、「セクシュアリティ」などの言葉が市民権を得、多くの論議がなされるようになった。2005 年の「性の健康世界会議（World Association for Sexual Health : WAS）」においても、モントリオール宣言として性の重要性が表明されている。

性の決定には種々の要素が関与する。染色体・遺伝子、ホルモン、内性器・外性器、容姿、心理、嗜好などにより性は決定される。モントリオール宣言第 1 項には、「すべての人の性の権利を認識し、促進し、保証し、保護する」とあるが、はたしてその現実はどうだろうか。マジョリティから逸脱した性的マイノリティにとって、それが先天的・後天的に関わらず、そのセクシュアリティが広く理解されているとは言い難い。

そこで、今学会のシンポジウムとして、「マイノリティにおけるセクシュアリティ」を取り上げた。ターナー症候群（性染色体異常）、性同一性障害者、ゲイ男性、身体障害者のセクシュアリティを、当事者を含む生の声を聞くことにより、性治療を先駆的に行うと同時に、社会への啓発を目標とする本学会員の今後の研究ならびに臨床の一助となることを期待する。

第 28 回日本性科学会学術集会長 菅沼 信彦
シンポジウム座長 甲村 弘子
森村 美奈

ゲイ男性のセクシュアリティ

日高庸晴

関西看護医療大学看護学部講師

全人口の3%~5%は同性や両性へ性的指向を持つ者（同性愛者や両性愛者）であると見積もられているが、わが国を含めかつての医学界の共通理解として、同性愛や両性愛は異常や逸脱あるいは性的倒錯であるという考えが主流を占めていた。そしてこの間、「異性愛へ治す」といった「治療」が施されていた時代があったが、1970年代初頭からの米国精神医学会における性的指向の捉え方に関する一連の議論を経て、同性愛・両性愛は「治さなければいけない疾患ではない」という見解に修正され、現在では疾患としての同性愛は医療の範疇におかれなくなり完全に消滅している。また、1992年に世界保健機関も「国際疾病分類改訂版第10版（ICD-10）」において「同性愛はいかなる意味においても治療の対象とはならない」と宣言を行っており、1995年日本精神医学会もその見解に追随している。医学界におけるこの一連の変遷は同性愛の脱医療化と呼ばれているが、我々の生活する社会も同様に変化してきているのであろうか。

筆者はこの10年あまり、厚生労働省エイズ対策研究事業の一環としてゲイ男性を対象に行動疫学調査を実施しており、累積研究参加者数は1万5千人を超えている。アジア地域で最大規模の研究参加者による調査研究から、同集団に困難な生育歴—いじめ被害率や自殺未遂率の高さなど—があることや、異性愛者と比較して対人関係や社会的なストレスを強く感じており、メンタルヘルスが概して悪いことなどが明らかになっている。また、わが国の新規HIV感染者（年間）の6割の感染経路は男性同性間性的接触であると報告されているが、一連の研究から同集団の予防的保健行動の実践率の低さやそれに関連する心理・社会的要因が数多くあることが示唆されている。

ゲイ男性のセクシュアリティや健康問題の実態を理解するために、これまでの調果から得られた知見をご紹介します・共有する機会としたい。

【略歴】

筑波大学大学院修了後、カリフォルニア大学サンフランシスコ校エイズ予防研究センターにおいてエイズ予防に関する研究に従事。

帰国後、京都大学大学院医学研究科博士後期課程修了、博士（社会健康医学）。

1998 年以降、厚生労働省 HIV 感染症の疫学研究班など国の数多くの研究班に参画し、HIV 感染予防行動を阻害する心理・社会的問題に関する研究に従事。

財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント、流動研究員を経て現在、関西看護医療大学看護学部講師／京都大学大学院医学研究科非常勤講師

性同一性障害者の性行動

針間克己

はりまメンタルクリニック院長

演者の臨床経験上、性同一性障害を有するものの性行動には以下のような特徴が見られる。

MTF (male to female : 男性から女性への性別移行をするもの)

- ・ 婚姻歴のあるものが、ある程度いる。
- ・ パートナーが現在いるものは多くはない。
- ・ 性指向はさまざまで、一定しないものや不明のものもいる。
- ・ 性経験は、男女に対してさまざまである。
- ・ 男性に惹かれるものは、肛門性交の経験があるものもある程度いる。

FTM (female to male : 女性から男性への性別移行をするもの)

- ・ 婚姻歴のあるものはまれである。
- ・ 現在パートナーのいるものが多数である。
- ・ 性指向は、女性に惹かれるものがほとんどである。
- ・ 女性に対して、キスや愛撫の性経験を持つものが多数である。
- ・ 女性に惹かれるものでも、思春期に男性と性交まで経験したものがある程度いる。

当日は、実際の臨床データを示し、以上のことを論ずる。

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

【略歷】

1990 年 東京大学医学部医学科卒業、東大病院精神神経科入局

1996 年 東京大学医学部大学院博士課程修了、医学博士号取得

1997 年 東京家庭裁判所医務室勤務

2005 年 東京武蔵野病院勤務

2008年 はりまメンタルクリニック開院

【著書】

「性非行少年の心理療法」、「性同一性障害って何?」、など

ターナー女性が語る、自分の性にまつわるトリロジー ～過去・現在・未来～

中野明子

ひまわりの会会長

基本的に、時間の流れに沿った私（ターナー女性）の体験談。まず、自分が抱えている性的な問題を、自覚したのは大学時代である。男性と女性という性科学関連の授業で、自分達の事が話題になっていた。この講義を受けた時の感想を、述べる。それと、大学時代に私が感じていた、同世代の人々との、どうにも表現し難い違い違和感みたいなものについても触れる。性的な発達が遅れるということが、当の本人にとってどんな世界なのか語る。そして、実は私、主人と出会う前に、別の男性と付き合っていて、結婚の話も出ていたのだが、彼はどうしても子供が欲しい人で、それが分かったので別れた、ということがある。この一件が私の恋愛観、結婚観に与えた影響は大きいので、触れてみる。それから、主人と出会って結婚するまでの話をする。ここでは、大多数のターナー女性、あるいは、不妊症でも、結婚前から、分かっているようなケースが恋愛するときに抱えがちな、相手にいつ不妊症であることを話すかという問題について触れる。会では、関係がそれで崩れることもあるが、それでも早く言った方が良いと言われているが、経験からそれは正しいと思うのでその話をしようと思う。そして、性的な面での少数派というのは、普通の意味とは少し異なったセクハラを受けることがある。例えば、良く不妊症患者は、（お子さんはまだなの？）と聞かれるのが苦痛だという。私自身は、でもさ、そうやって聞いてくる人の方がある程度自分に対して興味を持っている、仲良くなれる可能性のある人だったりするよ、と、これは苦痛でなかったのだが。さすがの私もこれは、いただけないと思った事が3つあるので紹介する。いずれも職場での話である。そして、私は2年程前に結婚した親友から、子供が出来ないの、と、相談を受け、産科の受診を薦めているところでもある。要するに、自分のような、ばりばりの不妊症の場合子供にこだわらない方が良く思っているのであって、不妊治療を決して否定しているわけではないという自分の考えを述べる。最後に未来ということで、今ひまわり会では、下垂体性小人症の人と年頃の会員さん達に男女の出会いの場を提供するための交流会を企画している。つまり、私の未来は世話好きなおばさんといったところか。

[illegible]

【略歷】

1976 年 岡山に生まれる、佐賀医科大学看護学科卒業

大阪医専精神保健福祉学科に進学卒業後国立療養所榊原病院に勤務

2004 年 結婚

2005年 鈴鹿さくら病院勤務

2006年 ターナー女性とその親の会、大阪ひまわり会の2代目の会長に就任し現在に至る

障害のある人のセクシャリティ

ー 性のノーマライゼーションとは ー

谷口明広

愛知淑徳大学医療福祉学部教授

『性』に対して一般の人々は、「性は生殖の為であり、結婚している人々のみに属するものである」という観念を抱いており、障害者福祉に関係している専門家や障害のある人たちの家族でさえも、このような固定観念に縛られていることが多いと認識している。要するに、障害のない人であれば、ノーマルとして認識されている「性行為」を始めとする『性』に関する事柄が、経済的に自立していない障害のある人たちに対しては、ノーマルと認められていないのである。

このような考え方からも理解できるように『性』を生殖（子づくり）の手段として画一的に捉えようとするならば、身体的および経済的に子どもを育てていくことが困難と思われる障害のある人たちを「性に関係しない人間」として捉えられるのかも知れないが、他の意味として“肉体的快楽を求める性”や“コミュニケーションとしての性”が通常の認識として表現されている。また、生殖を目的とする性のみをノーマルとする考え方は、同性愛をも認めないという判断に発展していくと考えられる。

この「ノーマル」という規範が、障害のある人たちを苦しめている。「正常位」という様相は国々によって異なり、また個人によって異なっており当然である。けれども、障害によって「正常位」での性行為が困難な者は、意味なくコンプレックスを感じる人が多いのである。

しかし、『性』をコミュニケーションの一方方法として捉えていくことは、障害があるか否かに関係なく、重要な事柄であり、障害のある人たちが『性』を求める気持ちをノーマルなものとして受け入れなければならない。さらに、障害のある人たちが自身が子どもを持ちたいと希望するならば、介護支援や所得保障を充実させていくことにより、実現を可能にしていくことがノーマライゼーションの具現化として考えていかなければならないのかも知れない。子どもにとっては「不幸」と考える者も少なくないと思われるが、私自身の経験からも、子どもの持つ能力は高く、障害のある人は親になれないとは証明できない。

障害のある人たちの生涯を考えて、生き方を設計していく相談支援の専門家さえ、「性の問題は別」と考えていることが多い。『性』という漢字は、「心が生きる」という意味を示している。『性』に関係しない人生では、心が生きないとも考えられる。真の「障害者解放」は、性のノーマライゼーションが鍵を握っていると言っても過言ではない。

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

【略歷】

1956 年	京都市生まれ。生後間もなく重症黄疸のため脳性マヒとなり、四肢および体幹機能障害で車椅子を使用となる
1984 年 4 月	自立生活問題研究所を設立
2004 年	愛知淑徳大学医療福祉学部福祉貢献学科教授に就任
2005 年 3 月	同志社大学にて社会福祉学博士の学位を受ける

【著書】

「障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント」、「自立生活は 楽しく 具体的に」、「社会福祉実践の思想」、「障害をもつ人たちの性」、など

一 般 講 演

■ 一般講演 I 9 : 00 ~ 9 : 40

座長 : 金子和子

(日本赤十字社医療センター)

■ 一般講演 II 9 : 40 ~ 10 : 20

座長 : 杉山正子

(すぎやまレディースクリニック院長)

1. 異性間のカウンセリングにおけるタッチングの考察

川野雅資、茅島江子、藤野彰子

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

カウンセリング場面において、お腹が痛いというクライアントに内科医の診察を依頼した。内科医の診察が終了してカウンセリングに戻ってきたが、腹痛を続けて訴えていた。看護師であるカウンセラーは、何とかその苦痛を軽減したいと思って、腹部に手を当てた。クライアントは、不思議に痛みが取れた、といった。

クライアントは30代、未婚の女性でうつ病と診断されて産業医からカウンセラーに依頼された。カウンセラーは男性である。カウンセラーは、痛みを取り除きたいという一心で腹部にふれた。この場面について、カウンセリングあるいは精神療法の場面では、タッチングは性的感情を喚起する危険があるので、禁忌あるいは慎重でなくてはならない、という助言を他者から受けた。この場面では結果的には良い効果をもたらした。それでは結果がよければよいのか、性的なタッチングとはどう違うのか、手当て、はしてはならないことなのか、どういうときに性的感情が喚起するのか、看護師であるカウンセラーは特別なのか、について症例を通して検討したので報告する。

2. HIV 抗体検査前後に実施された個別相談に関する分析

山中京子

大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科

【目的】HIV 抗体検査は HIV 感染の有無を知るための機会であると同時に自らの性行動のリスクを振り返り、また今後の感染予防に関して考える好機でもある。本報告では検査前後の相談に関する議論に資することを目的として個別相談の実際について報告する。

【方法】NPO 法人 CHARM が 2007 年 1 月～12 月に行った抗体検査事業に関する事業記録および個別相談記録より相談種別件数などを分析。

【結果】受検者総数 2633 名の内 261 名が個別相談を利用し、内 18 名は HIV 抗体陽性結果後の相談であり、234 名は採血日および HIV 抗体陰性結果受取後（他 STD 陽性を含む）の相談（以下検査日前後相談と略記）であった。検査日前後相談の相談内容別内訳は、個別相談記録（N=230）によれば、自分の性行為のリスクアセスメントやリスク低減の方法に関する予防相談 73%、疾患の知識や症状に関する相談 22%、心理相談 5%であった。男性での相談内容別内訳は、予防相談が 81%と最も多く、予防相談の対象となった性行為では、異性間の性行為 68%、同性間の性行為 23%、不明 7%等であった。女性に関しても口頭発表にて報告する。

3. 性同一性障害の遺伝と環境の影響の推定

— 双生児法による行動遺伝学分析から —

佐々木 掌子^{1),2)}、尾崎 幸謙³⁾、高橋 雄介^{1),2)}、山形 伸二^{1),2)}

敷島 千鶴²⁾、野中 浩一⁴⁾、安藤 寿康²⁾

¹⁾ 日本学術振興会、²⁾ 慶應義塾大学、³⁾ 科学技術振興機構、⁴⁾ 和光大学

【目的】成人期(19～26 歳)における性同一性障害(GID)の発現率を推定し、GID 傾向に関わる遺伝要因と環境要因の寄与には、GID 得点の高低による違いがあるのか否かを検討した。

【方法】協力者は 652 組(1316 名)の双生児。GID は、DSM-IV-TR に基づいた 4 項目の質問紙・6 件法で測定。

【結果と考察】GID の発現率は、0.2%(24 点中 24 点)と 1.5%(異性帰属/性別違和得点共に 12 点中 8 点以上)であった。男性では統計的に十分な人数の高得点者を得られなかったため、女性のみを対象とし上位約 10%を高群、次の約 20%を中群、残り約 70%を低群として 3 カテゴリー化し、構造方程式モデリングによる遺伝解析を実施した。その結果、低群と中群、及び低群と高群の違いに関わる要因は、相加的遺伝(A)・共有環境(C)・非共有環境(E)が異なるためである一方、中群と高群の違いは、A・非相加的遺伝(D)・E の相違であることが明らかにされた。高い GID 傾向と中程度の GID 傾向の違いは、双生児が共有する環境ではなく、個人が独自に経験した環境と遺伝によることが示唆された。

4. Sexual impulse の構成障害としての (F52.0) 性欲欠除 あるいは性欲喪失

梅宮れいか

福島学院大学福祉学部

(F52.0) 性欲欠除あるいは性欲喪失の本質は、普通の性欲がある者には理解し難い。性同一性、性指向は明確で、性交に不愉快感はなく、性交時の快感も存在するが、性的衝動はない。過去に性的トラウマを作るエピソードを認めず、本人は性衝動がないことを問題と感じていない。特に女性の F52.0 は、夫が妻（患者）との質的關係性を維持する機会を喪失するといった内容以外には問題を抱えない。このように F52.0 にはこれといった愁訴が伴わないため、臨床的な視点から議論される機会が少なかった。本研究では、私が経験した症例エピソードから F52.0 における sexual impulse の概念モデルの構築を試み、何が通常と異なるのかを論考する。

5. 短期精神療法で改善した男性性嫌悪症の治療経過

塚田 攻

埼玉医科大学かわごえクリニック

症 例：31 歳男性，IT 関連技術者．

家族環境：妻 26 歳と 1 歳の長男がいる．実家には両親がいる．3 歳年下の妹は既婚で 2 児の母．血縁者に精神科疾患の遺伝負因なし．

主 訴：妻がこわい．

診 断：性嫌悪症

治療経過：主訴は，妻に性行為を求められる恐怖であった．妻の妊娠中の性行為の後に流産し，本人は強い自責の念を抱いた．妻は再び妊娠し，1 年前に長男を出産．産後の身体を気遣い，大事にしてきたが，最近セックスを求められるようになった．しかし応じられず，また求められるのではと，いつもびくびくするようになった．本人の性歴の中で，去勢不安を生じさせる幼児体験があり，それが性行為の時の罪悪感とも重なっていることが判明．それを語る中で，本人の中でも結びついて理解でき，妻との性行為が可能になった．本人の希望もあって，5 回で終了した．

6. アンケートによる女性医師の性行動の調査結果

宋美玄、永井敦

川崎医科大学

多忙と言われる大学病院勤務の女性医師を対象に、性行動に関するアンケート調査を行った（現在調査中）。年齢、結婚歴、挙児希望の有無や、外科系・内科系・その他、夜間勤務の回数、パートナーの職業別に、性行動の頻度や満足度などを分析する。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

7. 40 歳で妊娠に成功した未完成婚

山崎高明、山崎敦子

神戸・山崎産科婦人科医院

37 歳の処女と 31 歳の童貞の見合い結婚で、1 年半経過した未完成婚である。

- H19 年 4 月 性交恐怖兼性交痛の主訴で来院
15 分かけて内診し、やっと小指が入る位であった。
- H19 年 5 月 処女膜輪状切除術施行、2 指挿入可まで拡張
(処女膜強靱症であった)
2 週後夫婦で来院、2 指内診可を夫にも確認させた。
内診台、椅子に跨いでヘガール 24 号を自己挿入させた。
以後タンポン、指等の挿入行動を課す。
- H19 年 8 月 遂にペニス挿入に成功 (初診から 4 ヶ月)
- H20 年 4 月 5 日 妊娠 7 週確認す。
- H20 年 4 月 22 日 妊娠 10 週確認、地元の医療機関に紹介す。

患者自身が自分の行動療法を丁寧に記載し報告してくれた。この方法は今後の指導に役立つと思われる。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

8. 腹腔鏡手術にて精巣摘出したアンドロゲン不応症 (Androgen Insensitivity Syndrome) の1例

小堀善友¹⁾、川口昌平¹⁾、中嶋孝夫¹⁾、島村正喜¹⁾

飯島将司²⁾、前田雄司²⁾、高栄哲²⁾、並木幹夫²⁾

¹⁾石川県立中央病院泌尿器科、²⁾金沢大学医学部泌尿器科

症例は27歳女性。

既往歴として、左鼠径ヘルニアに対する手術歴があった。原発性無月経を主訴に、近医婦人科を受診した。画像検査上、左右停留精巣を認めた。膣は盲端であり、子宮と卵巣を認めなかった。タナー分類で陰毛は2度、乳房は5度であった。遺伝子検査にて46XYであり、AIS疑いにて当院婦人科を紹介受診後、当科へ紹介となった。AISに伴う停留精巣は腫瘍化の懸念があり、腹腔鏡下両側性腺摘除術を行った。美容面を考慮し、下腹正中線上に10mmポート1つ、5mmポート2つとし、5mmポートは2つとも下着に隠れるようにした。術後採血にてテストステロン、エストロゲンは著明に低下していた。

現在、外来にてホルモン補充療法を継続している。術後も通常の女性として生活しており、男性の婚約者もいる。性交も術前と変わらず可能であった。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【ご支援、ご協力に感謝申し上げます】

京都大学医学部婦人科学産科学教室（温知会）

名古屋大学医学部産科婦人科学教室（尚和会）から助成金をいただきました。

【広告】

あすか製薬株式会社
大塚製薬株式会社
小野薬品工業株式会社
キッセイ薬品工業株式会社
キョーリン製薬株式会社
グラクソ・スミスクライン株式会社
サノフィ・アベンティス株式会社
シェリング・プラウ株式会社
第一三共株式会社
大日本住友製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社
武田薬品工業株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本新薬株式会社
ノバルティス ファーマ株式会社
ノボノルディスク ファーマ株式会社
バイエル薬品株式会社
万有製薬株式会社
ファイザー株式会社

ブリストル・マイヤーズ株式会社
明治製菓株式会社
メルクセローノ株式会社
持田製薬株式会社

【協賛】

アステラス製薬株式会社
株式会社ツムラ
塩野義製薬株式会社
ジェクス株式会社
第一三共株式会社
大東製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
ノバルティス ファーマ株式会社
フェリング・ファーマ株式会社
富士製薬工業株式会社

各社のご支援、ご協力に深謝します。

日本性科学会 JAPANESE JOURNAL OF SEXOLOGY（第26巻2号）

平成20年9月20日 発行

発行責任者 日本性科学会

理事長 大川玲子

〒107-0062 東京都港区青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内（TEL:03-3475-1780 FAX:-1789）

編集・発行 第28回日本性科学会学術集会

会長 菅沼信彦

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻家族看護学講座

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

（TEL/FAX:075-751-3912）

印刷 京都大学生生活協同組合 コンベンション・サービスセンター

〒606-8317 京都市左京区吉田本町 京都大学内

（TEL:075-752-0374 FAX:075-752-0368）
